

実践事例①【単元内自由進度学習を取り入れた実践例】

第5学年 心の健康

鳥取大学附属小学校 小林 祐介

1. 授業の実際

(1) 単元構成

単元内自由進度学習を進めるにあたって、「心の健康」の単元を通して学んだことを実生活に役立つ知識・技能として活用できるようにしたいと考えた。そのために、心を健康に保つための方法を「わたしの心の健康法」としてまとめ、学級内で発表して共有することを共通の課題として設定した。単元の導入である1時間目は、小学生だけでなく中学生や高校生、大人にも不安や悩みがあることに触れることで、今の段階から心の健康について学び、不安や悩みへの適切な対処の方法を今後の人生においても役立つ知識・技能として身に付けていくことの必要性に気付かせたいと考えた。そして、各自が自由に課題を設定し、主体的に学習を進められるようにした。また、単元の最後である6時間目には、「わたしの心の健康法」を発表し共有することで、人によって不安や悩みへの対処の仕方は異なることに気付かせ、友達の意見から自分の生活に生かすことのできる対処の仕方を見つけることができるようにした。そのため、単元の導入と最後は全員で学ぶ場を設定することにした。

(2) 学習計画と振り返り

単元2時間目から5時間目までは、児童が見通しをもって学習の計画を立て、自らの学びを振り返りながら学習を進めていく自由進度学習を行った。学習の手引きを作成し、オリエンテーションを行うことで、学習内容と学び方について確認し、児童が見通しをもって学習を進められるようにした。そして、振り返りカードを準備し、単元を通して児童がその日に学習することや、学習したことの振り返りを記入していくこととした。教師は、児童が実施した学習内容や振り返りをもとに学習の進捗状況を確認したり、助言をしてフィードバックをしたりすることで個別に指導できるようにした。

(3) 学習環境の整備

教科書の流れに合わせた「学習カード」を準備することで、自分で課題を見つけて計画的に学習に取り組むことが苦手な児童でも、一人で教科書をベースにしながらか計画的に学習を進められるようにした。そして、担任教師だけでなく、養護教諭やSCと連携して、児童がいつでも誰にでも質問できるようにするとともに、学習の様子を見ながら対応できるようにすることで、どの児童も安心して学習に取り組めるようにした。さらに、子供たちにとって最も身近な存在である家族にどんな不安や悩みがあるのか、そしてどのように対処しているのかをインタビューする家庭学習に取り組ませることで、不安や悩みは誰にでもあり、その解決方法も多様であることに気付かせ、学びを深められるようにした。教室の学習環境については、学校司書と連携し、関連図書を教室に準備することで、必要な知識を得られるよう整えた。また、教室には学習をしていくうえでヒントとなるもの（家の人にインタビューしたワークシートなど）を掲示することで、いつでも児童が参考にできるようにした。



学習内容ごとにジャンル分けをした関連図書



掲示物を参考にしながら学習をする児童



SCに話を聞きながら学習をする児童

(4) 教師の役割

本単元の2時間目から5時間目までは、個別に児童の学びを支援することに重きを置いて指導する

が、指導のスタンスとしては、学習の手引きをもとに児童が一人で学びを進められるように見守ることとした。児童それぞれで学び方は異なるため、一人で学ぶ児童もいれば、グループで学ぶ児童、学習内容によっては体育館で学ぶ児童などがある。そこで、学び方や学ぶ場所は児童に選択させることにした。学習が停滞しているときには、教科書を読む、友達に聞く、先生に聞く、インターネットや書籍で調べるなどの学習方法を提示し、学習を促した。学習内容の理解度の把握については、「学習カード」や「マイプラン学習ふりかえりカード」への記述を確認して、必要に応じて助言していった。



個別に学習を進める児童



学習進度が同じ友達と一緒に学習を進める児童



体育館で体ほぐしの運動に取り組む児童

2. 成果と課題

～成果～

- 教科書「わたしたちの保健」をベースにして作成した学習カードや振り返りカードを活用することにより、児童の学びの進捗状況や学習内容の理解度を把握することができ、個別の指導に生かすことができた。
- 関連図書を準備することにより、授業中だけでなく授業以外の場面（朝自習の時間、休憩時間など）で読書をする機会が増え、「心の健康」に関する知識を身に付けることにつながった。児童が「わたしの心の健康法」を書いていく際にも、関連図書に載っていた呼吸法などを引用して紹介するなど効果的であった。
- 養護教諭とSCと連携することで、児童一人一人に応じた指導をすることができた。また、専門的な内容についてSCが答えることで、児童にとって学びを深めることができた。
- 単元の導入で「わたしの心の健康法」をまとめていくことを課題として提示し、児童に意識させることで、単元を通して目標を見失うことなく自己調整をしながら学習を進めることができた。
- 家庭学習として家の人にインタビューをすることで、心の発達の仕方や、不安や悩みへの対処の仕方について理解を深めることができた。
- 深呼吸と体ほぐしの運動の実技については、実際に行っている様子を動画で撮影して提出させることで、児童が自分の取り組み方を確認したり、撮影してもらっている友達に行い方を聞いたりすることができ、体験を通して理解を深めることができた。
- 単元内自由進度学習では、教科書をベースにして学習を進めるため、知識・技能に関する力を高めるには有効であると感じた。

～課題～

- △学習環境を整備するために、掲示物の準備に時間がかかった。
- △自由進度学習で、どんどん学習を進める児童もいれば、進度がゆっくりな児童もいた。そのため、チェック課題を設けるなど、児童の理解度を把握するための工夫が必要であると感じた。身に付けさせたい学習内容を明確にし、それぞれの時間で何を評価していくのかを明確にしておくことも同時に必要であると感じた。
- △自己調整力を身に付けさせるためには、本単元だけでは難しいため、年間を通して児童に学び方を身に付けさせるためのカリキュラムのマネジメントが必要である。